

2023年2月1日
株式会社講談社

川上未映子氏『すべて真夜中の恋人たち』(講談社文庫) 「全米批評家協会賞」最終候補作品ノミネートのお知らせ

平素より弊社の出版活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

世界で最も権威のある文学賞の一つである「全米批評家協会賞」(The National Book Critics Circle Awards)の小説部門最終候補作品が1月31日(現地時間)に発表され、川上未映子さんの『すべて真夜中の恋人たち』(英語版タイトル『All the Lovers in the Night』Europa Editions 刊/Sam Bett and David Boyd 翻訳)がノミネートされました。全米批評家協会賞は毎年、小説、ノンフィクション、伝記、自叙伝、詩、批評の各部門で優れた文学作品に与えられるもので、小説部門で日本人作家が最終候補となるのは初めてです。全米批評家協会賞は3月23日(現地時間)に決定する予定となっています。

海外での高評価が続く川上未映子さん

昨年「ブッカー国際賞」の最終候補作になった『ヘヴン』(2021年・英訳)は、米ニューヨーカー誌に論考と作家論が掲載されたほか、ニューヨーク・タイムズやTIME誌など数々の媒体でその年の必読書に挙げられました。2021年秋のロンドン文学祭で舞台化され、イギリスのサウスバンクシアターで上演されました。ドイツ、イタリア、韓国、ノルウェー、フランスでも刊行されています。

毎日出版文化賞芸術部門を受賞した『夏物語』はイギリス、アメリカ、ドイツ、イタリアなどでベストセラーになり、40カ国で刊行予定です。同作品はTIME誌のベスト10、ニューヨーク・タイムズの必読100冊、アメリカ図書館協会のベストフィクション、世界的ベストセラー作家であるエレナ・フェッランテが選ぶ「世界の女性作家によるトップ40作品」に選出されました。ドイツでも有数の大劇場であるタリア劇場(ハンブルク)での上演が2022年4月から2025年7月までの3年にわたる劇場のレパートリー作になっています。

『夏物語』は、ガーディアン、フィナンシャルタイムズ、BBC(以上、英国)、ニューヨーカー、ヴァルチャー(以上、米国)、フォーカス、南ドイツ新聞(以上、ドイツ)、レプブリカ、コリエレ・デラ・セラ(以上、イタリア)、アイリッシュ・タイムズなど、欧米の各誌紙やラジオなどで絶賛され、大きな話題になっています。俳優のナタリー・ポートマンは、「問題を様々と見せる作品であり、現代的で、女性として今日の日本で生きることについての川上の描写がとても好きだ」と賛辞を送っています。

2月20日に刊行予定の『黄色い家』は、昨年、大型オークションにかけられ、大手出版社クノップフが版權を獲得しました。その後、世界各国から翻訳オファーが相次いでおり、イギリス、イタリア、フランスでも、日本語刊行を前に刊行が決定しております。

2022年に英語版が刊行された『すべて真夜中の恋人たち』は、TIME誌が選ぶ今年の100冊、ワシントンポストが選ぶ2022年の最高の50冊などに選ばれ絶賛されました。



KODANSHA

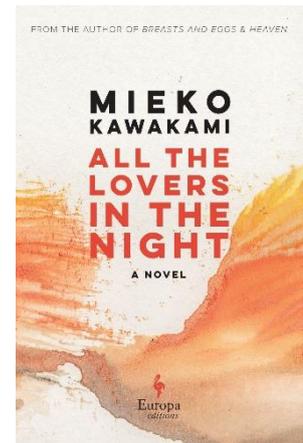
「おもしろくて、ためになる」を世界へ
Inspire Impossible Stories

◆『すべて真夜中の恋人たち』 作品紹介



【あらすじ】

「真夜中は、なぜこんなにもきれいなんだろうと思う」。わたしは、人と言葉を交わしたりすることにさえ自信がもてない。誰もいない部屋で校正の仕事をする、そんな日々のなかで三束さんに出会った——。芥川賞作家が描く究極の恋愛は、心迷うすべての人にかけてがえのない光を教えてくれる。渾身の長編小説。



英語版書影
Europa Editions 刊

講談社文庫／定価：748 円(税込)／360 ページ

【初出】「群像」2011 年 9 月号

2011 年 10 月 12 日 単行本刊行

2014 年 10 月 15 日 文庫版刊行

【累計発行部数】 30 万部

<著者略歴>

川上 未映子(かわかみ・みえこ)

大阪府生まれ。2007 年、『わたくし率 イン 歯一、または世界』で早稲田大学坪内逍遙大賞奨励賞、2008 年、『乳と卵』で芥川賞、2009 年、詩集『先端で、さすわ さされるわ そらええわ』で中原中也賞、2010 年、『ヘヴン』で芸術選奨文部科学大臣新人賞および紫式部文学賞、2013 年、詩集『水瓶』で高見順賞、『愛の夢とか』で谷崎潤一郎賞、2016 年、『あこがれ』で渡辺淳一文学賞をそれぞれ受賞。また、短編「マリーの愛の証明」が Granta Best of Young Japanese Novelists 2016 に選出。2019 年、『夏物語』で毎日出版文化賞を受賞、本作は英米、独、伊などでベストセラーになり、世界 40 カ国以上で刊行が進む。『ヘヴン』の英訳は 2022 年、国際ブッカー賞最終候補に選出された。その他、村上春樹との共著『みみずくは黄昏に飛びたつ』など著書多数。最新刊『黄色い家』が中央公論新社より 2 月 20 日刊行予定。



撮影／当山礼子



KODANSHA

「おもしろくて、ためになる」を世界へ
Inspire Impossible Stories

<全米批評家協会賞とは>

1974年にニューヨークで創設された全米批評家協会は、約800名の批評家・著者・出版関係者・学生メンバーによって成り立っており、全米批評家協会賞は毎年3月に、小説、ノンフィクション、伝記、自叙伝、詩、批評の各部門で最も優れた文学作品に与えられる賞。これまで、トニ・モリソン、ジョン・アップダイク、イアン・マキューアンなどが受賞している。

全米批評家協会賞 公式サイト

<https://www.bookcritics.org/2023/01/31/national-book-critics-circle-announces-finalists-for-publishing-year-2022/>